

「高知市こども計画（仮称）」策定に向けた若者アンケート調査 結果概要（速報版）

令和7年11月

1. 調査概要と回答者の傾向

項目	詳細
対 象 者	高知市在住または通勤・通学の18歳～39歳の若者（今年度18歳になる17歳含む）
実 施 期 間	令和7年10月1日～10月15日（Webアンケート）
周 知 方 法	広報あかるいまち、市長定例記者会見、公式LINE、HP、庁内掲示板、大学・高校等
有効回答数	1,750件（当初目標1,050件：信頼度95%、許容誤差3%）
年 齢 等	年齢（～20歳32.2%、20代23.5%、30代44.3%）、女性が72.5%を占める。
婚 姻	既婚者は45.4%
子どもの有無	「子どもがいる」が44.4%（そのうちの約半数48.4%が子ども2人：最多）
就 労 状 況	「正規の社員・職員・従業員」46.2%、「学生」37.5%、「パート・アルバイト」19.2%

2. 若者の「幸福度」と「将来不安」

若者は現在の生活に高い満足度を持つ一方で、自分の将来に明るい見通しを持っていないという課題が明らかになった。

(1) 現在の満足度（安定した人間関係）

幸福・満足感	割合	意見反映実感	割合
「今、幸せだと思う」 問10	86.2%	親から愛されていると思う 問13	92.2%
「今の自分が好きだ」 問11	66.2%	周りに意見を聴いてもらえている 問14	89.5%
「今の暮らしに満足している」 問15	73.6%		

(2) 将来への見通しと孤独感（潜在的な不安）

- 将来の希望は過半数にとどまる 問12:
 - 「自分の将来に明るい希望をもっている」と回答したのは53.9%。
 - 約4割（38.2%）が将来に希望を持っていない。
- 深刻な孤独感:
 - 42.2%の若者が「自分が孤独だと感じることはある」と回答。 問17
 - 頼れる人や場所は「ある」（86.0%）一方で、精神的な孤立感が存在。

(3) 現在の暮らしへの主な不満・不安要素

暮らしに不満を感じる理由として、以下の要因が確認できた。（自由意見） 問16

- 経済的な不安・不満: 金銭的な余裕がない、物価高で生活が大変。
- 子育てへの不安・不満: 仕事と子育ての両立に悩んでいる
仕事・家事・子育てに追われて自分の時間がない。
- 将来に対する不安: 老後への不安、将来が不透明。

3. 若者が求める「居場所」について

「第三の居場所」に求められる要件

若者は物理的な交流の場よりも、精神的な休息と個人空間を重視。

居場所のニーズ（複数回答） 問23	割合	主な居場所（複数回答） 問21	割合
1位：ひとりで静かに過ごせるスペース	77.0%	自宅	94.2%
2位：気軽に立ち寄れる（予約なし）	45.8%	学校・職場	23.3%
3位：自分の子どもと一緒に過ごしやすい	30.8%		

4. 若者の「行政参加」について

行政への意見反映と参加意欲

行政への意見反映実感は低い、参加意欲は高い。デジタルでの気軽な参加方法が求められている。

- 意見反映の実感の低さ：行政の取組に声が「反映されていると思う」はわずか12.3%。 問25
- 参加意欲：仕組みがあれば「参加したい」が64.5%。 問27
- 希望する意見提出方法： 問26
 - 1位：インターネットで答えるアンケート（78.0%）
 - 2位：SNS（LINE、X、Instagramなど）で伝える（26.2%）
- 参加をためらう理由：「意見が反映されるのか不安」「どうせ変わらないだろうと思ってしまう」「なかなか時間がもてない」「時間的余裕がない」など。

5. 子どもの頃のこと

(1) 自分の意見が大事に扱われたかどうかと学校に行きづらかった経験 問29～問34

小学生・中学生・高校生の頃、身近な大人が大事に扱ってくれた一方で、学校に行きづらい・行けなかった経験が一定数あったことが判明。

大事に扱ってもらえた	割合	学校に行きづらかった・行けなかった経験	割合
小学生の頃	72.9%	あった	44.9%
中学生の頃	73.3%	なかった	48.5%
高校生の頃	75.1%	わからない・答えたくない	6.6%

(2) そのときの心の支え 問35

心の支えは様々（SNS、インターネット、ゲーム、ペット、推し、趣味、一人の時間、習い事、話を聞いてくれる環境、家族、友人、先生）。「支えはなかった」「自分で我慢するしかなかった」「時間が解決するのを待った」という回答もあった。

6. こどもの権利について 問37～問40

こどもの権利については認知度の低さが確認できた。周知・啓発が課題。

権利	知っているかどうか
生命、生存及び発達に対する権利	詳しく知っている・知っている 34.9% 、知らない 23.7%
こどもの最善の利益	詳しく知っている・知っている 27.2% 、知らない 37.8%
こどもの意見の尊重	詳しく知っている・知っている 28.3% 、知らない 37.4%
差別の禁止	詳しく知っている・知っている 43.1% 、知らない 23.7%

7. 高知市に伝えたいこと（自由意見） 問41

若者からの自由意見（高知市へ伝えたいこと）に基づき、ニーズの高い項目を整理した。

区分	具体的要望	関連する課題
子育て支援	保育料・給食費・教材費等の負担軽減、多子世帯・ひとり親世帯への支援。雨の日や猛暑でも遊べる無料の室内遊び場の増設。	子育てへの不安・不満・負担感
教育・福祉・居場所づくり	不登校、いじめ、発達障害児への対応と居場所づくり。	孤独感（42.2%）、「一人になれる場所」のニーズ。
経済対策	物価高騰に対する対策、金銭的支援。	経済的な不安。
意見反映	市民の声の反映や透明性の向上。こどもの権利教育、権利意識の普及。	意見反映の実感（12.3%）の低さ、「こどもの権利」の認知度の低さ（特に意見表明権など）。
子どもの意見尊重経験	小学生から高校生までの各年代で、7割以上が身近な大人に意見を「大事に扱ってくれた」と回答。	⇒ 子どもや若者の意見を尊重する姿勢こそが、現状低い将来への希望（53.9%）を高める土台となる。

8. 総括とこども計画（仮称）の施策検討に向けて

高知市の若者は、幸福度や自己肯定感を持つ一方で、経済や子育て、将来への見通しに対する構造的な不安を抱えている。

この不安を解消し、市政への信頼を高めるためには、デジタルを活用した意見反映の仕組みの構築と、ニーズを反映した居場所や、経済や子育ての負担を軽減する実効性のある支援を優先的に検討することが重要。

⇒ 高知市こども計画（仮称）の施策検討につなげる。